

## 特別講演 1

### 「2型糖尿病治療の新展開

#### ～見えてきた SGLT2 阻害薬の有用性～

金沢大学附属病院 内分泌代謝内科 准教授

太田 嗣人 先生

2型糖尿病はインスリン分泌の低下とインスリン抵抗性の増大により高血糖が持続する代謝性疾患である。2014年春に登場したSGLT2阻害薬は、インスリン分泌能やインスリン抵抗性の改善とは独立した作用による新規糖尿病治療薬である。SGLT2阻害薬は、尿糖排泄を増加させ、'カロリーロス'をもたらすことで、体重への影響がみられる。2015年にはSGLT2阻害薬の心血管イベントに関するエビデンスが報告され、注目されている。

飽食の時代と云われ久しい現代社会では、日本人男性のBMIは増加を続け、また、2型糖尿病患者の平均体重も増加傾向にある。今、肥満の是正や体重の管理に配慮した薬物治療が求められている。本講演では、実臨床で、「どのような症例にSGLT2阻害薬の投与を考慮するのか?」という疑問に対し、最新のエビデンス、肥満や脂肪肝合併例などの自験例を交えながら、考察してみたい。見えてきたSGLT2阻害薬の可能性と今後の糖尿病治療を展望する。